千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第15週 (4/6-4/12) の発生は?

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

・大小は日内の外の一人の大生								
	15週	14週	13週	12週				
小児科	18	18	18	18				
眼科	5	4	5	4				
インフルエンサ・	27	27	28	28				
基幹定点	1	1	1	1				
	眼科 インフルエンサ [*]	小児科 18 眼科 5 インフルエンサ・27	小児科 18 眼科 5 インフルエンサ・27 27	小児科 18 18 眼科 5 4 5 インフルエンサ* 27 27 28				

	以口芯省致/取口足示效。	千		葉		市	千葉県	
定点	感 染 症 名	注意報	4/6-4/12 3/30-4/5		3/23-3/29	3/23-3/29 3/16-3/22		
AIV.		工忌 取	15週	14週	13週	12週	14週	
	RSウイルス感染症		2 0.11	5 0.28	0,22	0.11	18 0.13	
	咽頭結膜熱	0	6	3	4	3	56	
			0.33	0.17	0.22	0.17	0.42	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		51 2.83	43 2.39	45 2.50	47 2.61	371 2.77	
	感染性胃腸炎		98	100	111	117	682	
	您宋 性月肠災		5.44	5.56	6.17	6.50	5.09	
	水痘		9 0.50	5 0.28	7 0.39	5 0.28	68 0.51	
小			0.00	0.20	1	2	3	
児科	手足口病		0.00	0.00	0.06	0.11	0.02	
	伝染性紅斑	0	22 1.22	8 0.44	8 0.44	0.61	96 0.72	
	rh Setil Set /		14	14	10	11	65	
	突発性発しん		0.78	0.78	0.56	0.61	0.49	
	百日咳		0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	
	0. 1.0		1	0.00	0	0.00	4	
	ヘルパンギーナ		0.06	0.00	0.00	0.00	0.03	
	流行性耳下腺炎		0.17	0.11	5 0.28	0.33	51 0.38	
イン	インフルエンサ(高病原性鳥インフ		29	55	75	98	481	
フル	ルエンサを除く)		1.07	2.04	2.68	3.50	2.28	
			0	1	0		1	
眼	急性出血性結膜炎		0.00	0.25	0.00	0.00	0.03	
科	流行性角結膜炎		2	0	4	1	25	
	Arm who Lat. Date note also		0.40	0.00	0.80	0.25	0.76	
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	
	無菌性髄膜炎		0	1	0	0	2	
基	杰內江処趺火		0.00	1.00	0.00	0.00	0.22	
幹定	全 マイコプラズマ肺炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
点	クラミジア肺炎		0.00	0.00	0.00		0.55	
	(オウム病を除く)		0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	
	感染性胃腸炎		0	1	0	0	2	
	(ロタウイルスに限る)		0.00	1.00	0.00	0.00	0.22	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(10件)

-									
	病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法	
	結核	男性	10歳未満	ツベルクリン反応	結核	女性	70歳代	病原体等の検出	
	結核	男性	60歳代	病原体等の検出	A型肝炎	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出	
	結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	アメーバ赤痢	男性	50歳代	病原体の検出	
	結核	女性	20歳代	画像診断	侵襲性肺炎球菌 感 染症	男性	60歳代	病原体の検出	
	結核	女性	20歳代	病原体等の検出	麻しん	男性	10歳未満	血清IgM抗体の検出	

[・]結核6件(53)、A型肝炎1件(3)、アメーバ赤痢1件(2)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(12)、麻しん1件(1)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第15週のコメント

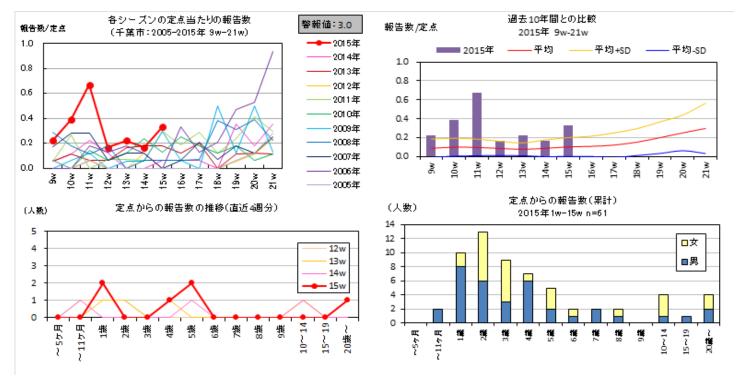
<咽頭結膜熱>前週より増加し0.33となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<伝染性紅斑>前週より増加し1.22となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

<咽頭結膜熱>

全国レベルの2015年第14週現在は、過去8年間の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮崎県、福井県、新潟県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第15週は、前週より増加し0.33となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況では、中央区(0.67/定点)で最多で、同区の4歳及び成人で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第15週現在の累積報告数(n=61)によると、性別では男性が57.4%(35名)、女性が42.6%(26名)で、年齢階級別では2歳(21.3%:13名)、1歳(16.4%:10名)、3歳(14.8%:9名)の順に多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの2015年第14週現在は、過去8年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、関東地方で多めで東京都、福岡県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第15週は、前週より増加し1.22となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況では、中央区(2.67/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第15週現在の累積報告数(n=135)によると、性別では男性が57.0%(77名)、女性が43.0%(58名)で、年齢階級別では3歳及び7歳(いずれも17.0%:23名)、6歳(15.6%:21名)の順に多くなっています。

